

今伝えたいことがある

5年生の部

11月3日に中央公民館で行われた第28回鞍手町「少年の主張」大会。
町内の小学5・6年生、中学生の代表がそれぞれに自分の思いを主張しました。
その中から最優秀賞に選ばれた3つの作品を紹介します。

主張した子どもたち(敬称略)

- | | |
|-------------|------------------|
| 佐伯 千尋 (新延小) | ・豊かな言葉の使い手になるために |
| 森 和佳奈 (西川小) | ・リーダー研修で学んだこと |
| 白木 理子 (剣北小) | ・働く母を見て |
| 坂元 亮太 (古月小) | ・じいちゃんがない夏休み |
| 久保田香穂 (剣南小) | ・幸せな生活をするために |
| 吉田 朋生 (室木小) | ・ふるさとの宝 |



後列左から 吉田朋生(室木小)・久保田香穂(剣南小)・坂元亮太(古月小)
前列左から 佐伯千尋(新延小)・白木理子(剣北小)・森和佳奈(西川小)

6年生の部

主張した子どもたち(敬称略)

- | | |
|-------------|-------------|
| ・きれいな町にするには | 田村 桃 (新延小) |
| ・支え合う仲間 | 満石 侃 (西川小) |
| ・家族の温かさ | 小峯加奈子 (剣北小) |
| ・生きるということ | 長濱 実央 (古月小) |
| ・あいさつの価値 | 栗田有依子 (剣南小) |
| ・支える | 能登原史華 (室木小) |



後列左から 能登原史華(室木小)・栗田有依子(剣南小)・長濱実央(古月小)
前列左から 田村 桃(新延小)・小峯加奈子(剣北小)・満石 侃(西川小)

中学生の部

主張した子どもたち(敬称略)

- | | |
|----------------|------------------|
| 池田まなみ (鞍手北中1年) | ・差別やいじめをなくすために |
| 内田 花梨 (鞍手南中1年) | ・勇気を出してみんなの笑顔を |
| 小野琳士朗 (鞍手北中2年) | ・勇気と決断 |
| 森安 海月 (鞍手南中2年) | ・私の思う「人権問題」 |
| 龍田 和樹 (鞍手北中3年) | ・震災から見たもの |
| 木下 流菜 (鞍手南中3年) | ・笑顔を紡ぐ「ありがとう」の言葉 |



後列左から 木下流菜(鞍手南中)・森安海月(鞍手南中)・小野琳士朗(鞍手北中)
前列左から 池田まなみ(鞍手北中)・龍田和樹(鞍手北中)・内田花梨(鞍手南中)





白木理子さん
(剣北小学校)

※主張を終えて…主張大会は、自信がありませんでしたが、先生方や父や母がいい経験になるからと背中を押してくれ、勇気が出ました。発表があった時、頭が真っ白で私の名前が呼ばれたのが、わかりませんでした。最優秀賞は、とてもうれしかったです。

＊働く母を見て ◎5年生の部 最優秀賞

職場体験をしてみませんか？
母の会社の社長さんが私に声をかけてくれました。私の母は、自動車販売店に勤めています。
私は、母がどんな仕事をしているのか知りたいと思います、参加を希望しました。
私は、「どんな体験ができるのかな？」
「母は、どんな仕事をしているのかな？」と、職場体験の日まで、ずっとワクワクしていました。そして、8月9日、職場体験の日がやってきました。

始めに、お客さんが来る前の時間に、会社の庭の草取りをしました。とても暑かったのですが、大変でした。しかも、草がなかなか抜けません。でも、母や会社の人たちは、このような暑い中でも草ぬきをしています。お客さんを気持ちよく迎えようとしている母のこ

とを、改めてすごいなと思いました。
次に、会社の掃除をしました。「掃除をするときには、お客さんのことを考えてね。」と、会社の人が、私に声をかけてくださったので、私は、お客さんのことを考えていっしょうけんめい掃除をしました。たくさんあるテーブルを一つ一つていねいにふきました。ショールームに行くと、床や壁もピカピカになっています。こんなところも、ふだん母たちが、お客さんのことを考えて掃除をがんばっているのだなと気付きました。トイレの掃除もしました。便座はもちろ

ろん、床や壁もピカピカになるまで磨きました。力を入れて磨いたので、手が疲れていくようになりました。私は、お客さんをお迎えするには、まず会社の中をきれいにすることが、わかりました。
母の仕事を実際に見たのは、初めてでした。母の仕事はたくさんあります。お客さんからかかってくる電話に対応したり、お客さんとお話をしたり、お金を数えたりと、いつもいそがしそうでした。しかし母は、いくらいそがしくても笑顔でお客さんと話をしていました。その母の姿を見て、「お母さんは、本当にすてきな。」と思いました。職場体験の中で、母がしている仕事をやってみて、母の仕事の大変さがわかりました。

母は、毎日、大変な仕事を終えて、家に帰ってきます。その時、つかれているのに、私たち家族に「ただいま」と笑顔で言ってくれます。私は、母の笑顔を見ると元気になる。同じように、母の職場を訪れたお客さんも、母の笑顔をみると明るい気持ちになるのではないかなと思います。私は、職場体験ができて本当によかったと思います。母の仕事を知ることができたし、人のために尽くすことのすばらしさを学ぶことができました。私は、将来の仕事をまだ決めていません。だけど、母のようにいつも笑顔で人が喜ぶようなことができる人になりたいです。

審査委員長（教育長）の講評

最優秀賞3名の皆さん、優秀賞15名の皆さん、学校代表として、この大会に向けた努力に対し、心から拍手を贈りたいと思います。発表者一人ひとり、しっかりした論旨にまとめ、原稿の棒読みではなく、聴衆に語りかけるように発表しました。

鋭い観察力と豊かな表現力、真剣な眼差しで発表する感性豊かな子どもたちから、私たち、大人が忘れかけていた大切な内容を教えてくれた大会でもありました。

第28回、鞍手町「少年の主張」大会がすばらしい大会となりましたことを心から感謝申し上げます。

◎6年生の部 最優秀賞

＊家族の温かさ



小峯 加奈子さん
(剣北小学校)

＊主張を終えて… 今回の少年の主張を通して、「最優秀賞」と、みんなの前でも発表できるという「自信」をもらったので、とてもうれしいです。私一人の力ではなく、先生や家族の支えがあったからこそ受賞できたと思います。だから、たくさんの人に感謝しています。

み

なさん、「家族の温かさ」とは、なんだと思えますか？

私は家族について考えてみました。

私の家族は、家族の誕生日や何かの行事の時にしか、家族そろって食事ができません。みんなで食卓を囲んで食事をした方が、おいしく感じると思いますが、母や祖母は、仕事などにいそがしく、どうしてもみんなでいっしょに食事をする時間がとれないのです。だから、テレビドラマなどで家族全員がそろって食事をするシーンを見ると、うらやましく思います。私以外の人も、そんな家族での食

事にあこがれている人も多いと思います。そんな他の家族にあこがれている私ですが、今の生活が、私の家族の在り方だということをわかっていきます。

他の家族へのあこがれはあるものの、私の家族のいいところはたくさんあります。母と祖母は、朝、昼、夜の食事を、必ず用意してくれます。しかも、手作りで栄養のこともよく考えた愛情いっぱいの料理です。また、私が悪いことをしたら、いっしょけんめいしかつてくれます。さらには、私が学校に行くことができるのも家族のおかげだと思っています。考えてみれば、それ

らのことは、ごく当たり前のことなのかもしれません。しかし、その当たり前と思うことの一つ一つが家族の支えで成り立っているのです。そして、それが、家族の温かさなのだと思います。

私は、今まで他の家族にばかり目が向いていたのかもしれませんが、ただ、自分の家族を見つめ直してみると、家族って本当にいいなと思えます。

ある夜の事です。久しぶりに家族みんなで夕食をすることができました。ひいおじいちゃん、母と私に昔のことを語ってくれました。その話は、母も私も知らない話だったので、驚きの連続でした。私にたくさん話をしてくれたひいおじいちゃんの顔は輝いて見えました。そして、その時の食事の味は、いつも以上においしく思えました。なかなかいっしょに食事はできませんが、これから、短い時間の中でも家族で、心が通い合うようにたくさん会話をしたいと思います。

みなさん、いつも当たり前と思っていることにもっと目を向けてみませんか？そうすると、家族の温かさに気付くことができます。私は、これ

からたくさん家族の温かさを感じながら成長していきたいです。

ふだんは、はずかしくてなかなか言えないことを今日は、家族に伝えます。

自分をいつも大切に思ってくれているひいおじいちゃん、おばあちゃん、そして、おいしい料理を作ってくれたり、きちんと私をしかつてくれたりするお母さん。ありがとうございます。



み

なさんは、2011年

3月11日、この日本で、忘れてはならない恐ろしい自然災害が起こったことを覚えていますか。それは、死者1万5861人、行方不明者2939人を出した東日本大震災です。この中には、地震や津波だけでなく、震災時のけがが悪化したことや、避難生活の負担によって亡くなった方々の数も含まれています。僕は、ニュースなどで聞いた被害に遭った方々の話をきっかけに、この出来事について調べることにしました。

まず、この震災の恐ろしいところは、地震だけでなく幾つもの災害が伴って起きたところにあります。よくテレビで、津波により家や車が流されたり、人が流されたりする映像を見ます。そのたびに、僕は目を背けてしまいます。また、電気が使えず大勢の人々が帰宅困難や、生活していく上で困っている様子が映し出されたの事実をしっかりと受け止め、本気でこのことと向き合わなくてはならないと思います。僕は、実際に震災を体験した叔母から話を聞くことが出来ました。叔母は、やはり「いろいろなことに困った」と言っていました。一番困ったことは水がないことだ

と言っていました。さらには、食料があまりないことも困ったとのことでした。このような生活をいまだに送っている人たちもいるという話も聞いて、すごく胸が痛むと同時に、自分たちには何が出来たのかというのを考えていかねばなりません。

他にも問題はあります。それは、食料がなく困っている人や、まだ自分の家がなく仮設住宅に住んでいる人々についてです。初めてその話を聞いたとき、震災から2年以上経っているのに、「まだそのような生活を送っている人がいるんだ」という驚きがありました。そして、調べていく中で、普通の住宅に住んでいる人は限られている、ということを知りました。また、仮設住宅には、テレビや冷蔵庫など必要最低限の生活用品が支援されていることもわかりました。ということは、まだ普通の住宅に住めず、仮設住宅の中で、日々を過ごしている人がいるということ。この事実を知り、とても悲しい気持ちになりました。そして、自分が日々生活できていることは、当たり前のように意識して守っていかなければならぬのだと感じました。さらに、被災された方々の声をインターネットやドキュ

メンタリー番組で調べました。そこでは、「津波が怖い」や「震災前と同じように、友だちと楽しく遊べる日が早く来てほしい」などさまざまな、見ると心が痛むことが書かれていました。しかし、このような不安の声の他に、「心を折らず頑張っていく」という前向きな意見も見られました。このように調べていく中で、ふと気付いたことがあります。それは、人がつながりを持ち生活していく中で、やはり協力や助け合いということが大切だということです。震災時に、外国の人たちから高く評価されていたことがあります。それは、一切暴動や略奪が起きなかったことです。さらに、互いに協力して炊事をしたり、食料を分け合ったりして生活をしていました。このことから僕は、被災地の方々の協力や信頼というものが見えたと思います。また、僕は当時、小学6年生でしたが、被災した方々のために何を協力することができのかを考えました。そこで、被災地の子どもたちが笑顔になれるように、新一年生のためにランドセルを贈ることにしました。さらに当時、日本全国からこのような支援が集まりました。僕は、一人の力は小さいものだと思います。しかし、今回の

ように被災者の方々や周囲の人たちと協力し助け合うことで、一人ひとりの力がつながっていきと思えます。そうなることで初めは小さかった力があるのだと思います。そして僕たちにはやるべきことが、たくさんあると思います。僕は今、鞍手北中学校で生徒会長として活動しています。そして、生徒会活動の一つに「あいさつ運動」というものがあります。この活動を通して、学校全体の雰囲気明るく温かくなきつかけになったと思います。この信頼関係が困っている人がいたときに手を差し伸べる

という行動につながっていくと思えます。また、今の生活があるというのを当たり前で考えるのではなく、多くの人の支えがあって生活が成り立っているというのを忘れてはなりません。僕にはまだ、できることが限られていますが、高校から社会人へと成長していく中で、できることが増えていくと思っています。その時に、「協力する」という気持ちを忘れずに、積極的にボランティア活動などに取り組んでいきたいです。そして、世の中の役に立つような立派な大人になりたいです。

●中学生の部 最優秀賞

＊震災から見えたもの



龍田和樹さん
(鞍手北中学校3年)

＊主張を終えて…このような素晴らしい賞をもらったのは、僕ひとりではなく、先生方や友だちのおかげだと思います。本当に感謝しています。